

## 平成29年度の重点目標

- 1 諸活動を奨励し、健康で豊かな心を身につけさせ、主体的に学び合う学校生活の創成に取り組ませる。
- 2 学力の向上と進路意識の早期確立を目指し、各教科、各学年、各々が授業を第一に連携・協力し、生徒の自己実現を図る。
- 3 自覚ある生活態度の確立と地域社会との連携により社会性、寛容性を培うと同時に、本校の特色化を推進する。

## 平成29年度 努力目標及び具体策

### 1 教務部

評価基準    A：達成できた    B：おおむね達成できた    C：あまり達成できなかった    D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 新学習指導要領に基づく教育課程を確実に運用する。	(1) 各学年の教育課程の実施状況を検証し、問題点を明確にする。	B	①懸案だった理系コースの理科の進捗についても改善されたように聞いており、成果が上がったと評価できる。 ②一部の教科で単位数を増やしたが、生徒の学力・理解度はどのような変化があったか？ ③文理とも、進路に必要な科目を早めに周知しておくとうよかった。
			①他教科への影響について、精査が必要である。 ②校内テストや校外テストの成績（上位層・下位層）をしっかりと検証する。 ③具体的な大学の学部学科を取り上げ、受験に必要な科目を伝える。
2 平成30年度入試を確実に実施する。	(1) 一日体験学習、中学校訪問で、本校の魅力を広報し、志願者が増加するように努める。	A	①一日体験学習、中学校訪問、学校説明会等、精力的な広報活動を展開できた。 ②もう少し他校と比較し、本校のメリットを説明できる資料があるとよかった。 ③一日体験学習では、誘導や発表などの場面で生徒が積極的に活動し、生徒主体の行事となった。
	(2) 特色選抜・一般選抜の実施方法を十分検討し、入試が円滑に実施できるように努める。	A	①これからの行事であるが、これまでも大きな不都合は起きなかったように思う。 ②円滑に実施していると思う。 ③各種委員会等を通して、全職員で検討がなされた上で実施している。 ・非常時の体制を整え、万全を期す。
3 とちぎの高校生「じぶん未来学」プログラムを確実に実施する。	(1) 関連する教科・科目等の学習項目に合わせて実施計画を立て、該当教科担任、学級担任が円滑に実施できるように努める。	B	①該当教科や担任に任せてしまっているが、特に問題もなく実施できているように思う。 ②担任として、実施の意義を理解させるよう努めた。グループ活動に消極的な生徒に働きかけたい。 ③扱う内容がデリケートな問題なので、職員間の共通理解が必要である。 ④学年と教科との連携に不十分な点があった。
			③じぶん未来学の実施方法について周知し、全職員が関わる必要があると思う。 ④今年度の反省をしっかりと行い、来年度以降よい方向になるようにする。

## 2 学習指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の学習意欲を喚起することで、基礎学力の定着・向上を図ると共に、より高い学力の習得を目指す。	(1) 「チャイム to チャイム」を徹底し、授業の工夫に努め、基礎・基本の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チャイム to チャイム」はほぼ定着しているが、生徒によっては授業の準備が不十分なことがある。</li> <li>多くの教員が授業をより良くするため、効果的なプリントの作成やアクティブ・ラーニングの導入などに努めている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>「チャイム to チャイム」の徹底、基礎・基本の定着については、今後も努力を続ける。</li> </ul>
	(2) 学習ガイダンスや普段の指導を通し、高校生らしい学習習慣を定着させるよう努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ガイダンスは、高校生としての学習方法を身に付けさせるのに役立っている。</li> <li>学習ガイダンス以外で学習について指導する場が少ないと思う。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で、折に触れ学習法の指導を行う。</li> </ul>
2 総合学習の充実を図る。	(1) 他の分掌・校内組織と協力し、総合学習の時間に行う課題研究の指導を効果的に行えるよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「コアスクール」プランによる課題研究を開始し、生徒ができるだけ主体的に活動できるよう配慮している。</li> <li>図書館やパソコン室が混み合うため、工夫が必要ではないか。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の課題・成果を次年度に引き継ぐ。</li> <li>組織的な協力・支援を行う。</li> </ul>
3 現職教育の充実を図る。	(1) 生徒の課題研究の指導を効果的に行えるように、校内研修を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>有意義な職員研修が実施され、積極的に参加することができた。</li> <li>課題研究に生かせるような研修は実施できなかった。</li> <li>アクティブ・ラーニングの研修体制が充実した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の校内研修の内容・時期等を検討する。</li> <li>本年度1学年の課題研究の内容、成果や課題を職員会議等で示し、全職員が情報を共有できるようにする。</li> </ul>
4 職員・生徒の人権意識の向上を図る。	(1) 生徒の人権感覚のより一層の育成・向上を図り、その実現に向けて、適切な教材の研究や、職員の研修の工夫・改善に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識を持ち、指導に当たることができた。</li> <li>3年生のビデオ教材は内容が適切であったが、時間が少し足りなかった。</li> <li>職員の研修をもっと充実させるべきである。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>係を中心に指導案をさらに工夫し、職員の研修を充実させ、人権意識の高揚を図る。</li> </ul>
5 図書館教育の充実を図る。	(1) ビブリオバトル等の行事や推薦図書を紹介等を通して、読書や図書館利用を奨励する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期末の時点で、貸出数が昨年度より100冊増加している。</li> <li>図書の配置や掲示物等が工夫されている。</li> <li>ビブリオバトルが充実している。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、掲示物や図書館だより等を工夫し、読書の奨励を図る。</li> <li>授業に関連した本を置けるように、各教科との連携を図る。</li> </ul>

## 3 特別活動部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

--	--	--	--

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の自主的・実践的活動を促し、生徒会の活性化を図る。	(1) 各種行事の内容を更に検討し、より充実したものにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が中心となって内容を検討した結果、各種行事が充実した。</li> <li>・生徒会役員がその段階で持てる力を最大限に発揮し、良く活動した。</li> <li>・紫陽祭、体育大会ともに毎年各所に改善がなされ、充実したものになっている。</li> <li>・継続して実施していく。</li> </ul>
	(2) 各種委員会・部活動と生徒会役員の連携を強める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事では、生徒同士協力してやっている。</li> <li>・予算関係等よく話し合われ、連携が図れた。</li> <li>・野球応援や壮行会などで、生徒会と部活動でしっかり連携を強めることができた。</li> <li>・ペットボトルキャップ回収について、生徒会と福祉委員で連携できた。</li> <li>・今後も様々な面で生徒会と委員会の連携を考えて、活性化を図っていく。</li> <li>・翔南タイムズを通じて部活動の紹介をする。</li> </ul>
2 HR 活動における生徒の自主性を育成し、望ましい人間関係の形成を図る。	(1) 各種委員会の自主的活動を支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉委員や図書委員の募金活動やビブリオバトルなど、各委員会をよく活動していた。</li> <li>・ペットボトル回収など、福祉活動を積極的に行っていた。</li> <li>・各種委員会によって活動に差がでしまう場合もあり、活動支援が十分ではなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会、係によって仕事量の偏りが無いか検討していく。</li> </ul>
	(2) LHR の学年・クラス裁量時間を確保して、生徒による活動を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ生徒の主体性を育てられるよう工夫した。</li> <li>・今年度は課題研究で、生徒同士が話し合い自主的に活動していた。</li> <li>・学年で計画がしっかり立てられていた。</li> <li>・クラス裁量の時間は確保できなかったが、学年での時間は確保できた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をやっていいのかわからない生徒が多く、指示を待っている生徒も多い。そういった生徒への指導を的確に行っていく。</li> <li>・課題研究の時間数について再検討し、クラス裁量の時間を確保する。</li> </ul>
3 部活動を活性化させる。	(1) 施設・設備の充実を図り、部活動の活性化に繋げる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの部活動も活発に行っていた。</li> <li>・各部活動は一生懸命に活動していると思うが、施設、設備は予算の関係もあり、充実を図れたとはいえない。特にテニスコートやサッカー場は、早急な整備が必要である。</li> <li>・まだまだ施設、設備の充実を図るべき場所が多いと感じる。</li> <li>・校庭の南側ライト等、整備が必要なものがある。</li> <li>・予算の関係で、設備の充実は難しい状況である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年でPTAの予算の見直しが済んだと思うので、H30年の整備計画を具体化する</li> <li>・チェックリストのようなものを活用する。</li> <li>・予算がなくて出来ないのならば、2年後3年後を見通した計画を立て、部分的に継続し整備して施設、設備の改善を図る。</li> <li>・来年度は、更に施設、設備の整備について考えた予算配分をしていく。</li> </ul>
	(2) ホームページ等を通じて、広報活動を積極的に行い地域間の連携を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会については定期的に記事が載せることができた。</li> <li>・懸垂幕はよかった。</li> </ul>

		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の結果等を報告することができなかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を確保する。</li> <li>・個人ではホームページに活動内容を載せることが出来ないため、係と連携を図り広報活動に努める。特に部活動の活動内容については積極的に掲載する。</li> </ul>
--	--	---	---

#### 4 生徒指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 統一された指導体制のもと、全職員が互いに協力、連携して指導する。	(1) 共通理解のもと、容儀指導を中心に個々の生徒に対して生活態度の確立を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体としては概ね達成できたと思うが、個々の生徒に対しては、全職員の共通理解がうまくはかれず対応に苦慮した。</li> <li>・容儀指導に関して、学年間の温度差がある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、継続的に指導していくと同時に、部と学年、クラスの関わりを個々の生徒に応じて工夫をして保護者との連携を図る。</li> <li>・各学年男女の容儀指導のチーフ（学年主任以外の先生）をしっかりと決めて、共通理解を図る。</li> </ul>
	(2) 校門付近の立哨指導やふれあい街頭指導を通し、家庭との連携のもと全職員で生活指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期のスタート時期や5月の連休後に、「身だしなみ週間」と位置づけて、立哨指導を部内中心で行った。徐々に成果がでてきている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の正担任も連携して継続実施していく。</li> </ul>
2 教育相談を効果的に生徒支援に活用していく。	(1) 相談しやすい環境を作り、個々の生徒に対して、教育相談の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭、スクールカウンセラー、教育相談係が積極的に生徒に関わり、話しやすい関係を作ってくれた。また、保健室での情報を、各担任に頻繁に連絡してくれてありがたかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年やクラス担任を中心とし、さらに教科担任など多くの教員で情報を共有し、連携して指導をしていく。</li> </ul>
	(2) 各部、外部関係機関等と連携を図りながら、生徒の情報を共有して学校生活の改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の必要な生徒が増えてきている状況下で、スクールカウンセラーがよく機能している。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、スクールカウンセラーの予算を増額し、相談時間を増やして対応する。</li> <li>・教員研修の実施や校内支援体制の構築をより一層図っていく。</li> </ul>
3 交通安全及び社会規範に対する意識の向上を図る。	(1) 交通安全の講演会、自転車安全点検の実施や交通街頭指導を通して、交通ルールの意識の向上を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステッカーを貼っていない自転車や、音楽を聴きながらの「ながら運転」などが見られた</li> <li>・放置自転車の撤去ができて良かった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、数件の事故が発生しているが、死亡事故につながらないように、講演会や自転車点検等を通して、交通ルールの意識の向上に努めていく。</li> <li>・交通委員会の活動を活発にしていく。</li> </ul>
	(2) 薬物乱用防止、情報モラルなどの講演会やいじめアンケートの実施を通して、生徒の健全育成に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートや担任面談では把握できない、生徒間における不適切なやり取り、発言があった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度は、不審者被害対策として防犯に関する講話を計画立案して実施していく。</li> </ul>

#### 5 進路指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の適性と実態を把握し、進路意識を高める。	(1) 進路希望調査、進路講演会、大学見学、一日大学、合格体験発表会、進路適性検査等を実施して進路意識の早期高揚を目指し、キャリア形成指導に十分活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的によく計画されていて良いと思う。</li> <li>・2年の大学見学、翔南一日大学は充実して良かった。進路意識の高揚につながった。</li> <li>・行事の前後に、実施の意義についてHRでコメントし、意識の高揚に努めた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア形成指導として将来的には修学旅行を入れてはどうか。</li> <li>・進路希望調査は全職員に分かるように、誰がどの学部・分野を考えているか一覧を出す。</li> </ul>
	(2) 「進路探究ノート・進路資料」の内容の更なる充実を図り、5月下旬までに発行し、3年間の体系的な進路探究活動に活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分冊のため、提出や持ち運びが楽で良いと思う。</li> <li>・更に充実したものになり、大いに活用できる。</li> <li>・進路探究ノート・進路資料は物理的側面でもまだ改善の余地がある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる内容の充実を図る。</li> <li>・各学年で利用してもらう機会を設けてもらう。</li> </ul>
2 進路先について研究し、志望校決定のために適切に助言する。	(1) 校内模試・実力テストの作問・結果分析を充実させる。校外模試は、データ到着後早急に生徒と職員に分析結果を報告し、指導に活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内模試と定期テスト間で作問を連携し、解決すべき課題として浮かび上がったことを授業と次のテストに活かすというサイクルを、ある程度実践できたと思う。</li> <li>・素早い対応で、校内模試の分析も生徒に還元できて良かった。</li> <li>・3年第2回校内模試を9月にしたのは良かった。</li> <li>・事後の学習にどう活かすか、事後の振り返りの大切さまで指導できると良い。</li> <li>・指導に活用されているのか分からないところもある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析を単発・単回に終わらせない工夫を考える。</li> <li>・なるべく早めに集計・処理をして、必ず生徒に振り返りをさせ、指導する。</li> <li>・保護者にも確実に伝わるように指導したい。</li> <li>・学年・教科全体の説明の他に、各科目の分野ごとの分析を入れる。</li> </ul>
	(2) 3学年進路検討会(7・12月)、国公立大二次出願検討会(1月)、2学年進路対策会(2月)、3学年新旧担任報告会(3月)の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検討会を頼りにしすぎて、担任自身が十分な準備をせずに臨んでしまい、検討が深まらない部分が残った。</li> <li>・進路検討会は出席者に限りがあるため、系列によっては思うような効果が出なかった。</li> <li>・新旧担任報告会の時間が短い。</li> <li>・3年の進路検討会は重要なので、一人一人に時間がかかってしまうのは仕方ないが、生徒の説明などは最小限にして、長くならないように工夫できると思う。</li> <li>・本校生の傾向について理解する機会となった。</li> <li>・面談に於ける有効な情報が得られた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任・検討委員相互で準備を入念に行う。</li> <li>・できるだけ各系列に詳しい教員が関われるようにする。</li> <li>・資料作成の工夫をしていきたい。</li> <li>・相談内容を明確にする。</li> <li>・旧3年担任だけでなく、旧3年の授業担当者も加わると有り難い。</li> </ul>
3 保護者や地域社会への広報活動に努め、外	(1) PTA総会、学年部会、支部会等において進路情報を適		<ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの会合に参加してくれる保護者に対しては十分な情報提供を行い、意識の高揚を図れた。</li> </ul>

部からも情報を適宜収集する。	切に伝え、進路指導に対する連携意識を醸成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する知識・情報が担当者自身不足していた。</li> <li>・保護者の参加率が低かった。</li> </ul>
	(2) 大学入試改革を意識して、各種説明会（大学・業者）へ教職員が積極的に参加し、内容を関係者に周知する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会合に参加できなかった保護者の意識高揚をどう図るか？</li> <li>・保護者の参加をより促す。</li> <li>・保護者対象に卒業生やその保護者が話しても良いと思う。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に行動する教員に任せてしまった感がある。</li> <li>・いくつか参加させていただき、ためになったが、他の教員への情報の伝達は不十分だった気がする。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・国レベルでやっと具体化してきたところで、今後も継続して課題とすべきだと思われる。</li> <li>・教職員への参加を促す。</li> </ul>

## 6 健康指導部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒が身体と心の両面から健康管理が徹底できるように指導する。	(1) 生徒自身が、日頃から自分自身の健康について関心を持ち、主体的に健康管理ができるようにタイムリーな情報提供や指導をする。	B	<p>換気、うがい、手洗い等が足りない。 保健便りや掲示物等適切な場所に掲示し、情報提供をした。</p> <p>感染症予防への呼びかけや広報を工夫する。</p>
	(2) 頻繁に保健室を利用する生徒に対して、担任や関係諸係との連携を密にし、問題を未然に防ぐよう努める。	A	<p>スクールカウンセラーとの面談記録等は、非常にありがたかった。 担任を中心に連携がとれていた。関係職員に速やかに情報提供がなされ、支援できた。 保健室利用状況の配布、説明等、職員に周知した。</p> <p>継続して実施していく。</p>
2 安全な学校環境を整備する。	(1) 緊急事態発生時の教職員への周知方法等を徹底し、事後の対処等を確立するよう努める。	A	<p>今年度は、ミサイル等危機管理についての対策がよく周知されていた。</p> <p>継続して実施していく。</p>
	(2) 救急患者等に対応するため、AED講習会を生徒及び教職員対象に開催する。	A	<p>教職員向けの講習会が実施できたことは、よかった。</p> <p>継続して実施していく。</p>
	(3) 安全点検を年3回以上実施し、危険箇所の詳細な把握、早期改善に努める。	A	<p>早期改善に努めてくれた。</p> <p>継続して実施していく。</p>
3 学校環境の美化活動を推進する。	(1) 清掃分担区の見直し、監督割りの工夫を図る。	B	<p>監督場所が複数にわたり、生徒への指導が行き届かない。</p> <p>頻繁に使用しない教室の清掃方法を変える。</p>
	(2) 各清掃分担区において、積極的且つ自主的に取り組むよう指導を継続して行う。	B	<p>分担区によっては不十分なところも見られた。</p> <p>指導する先生方の意識を高める。 生徒に、再度清掃時のルールを確認させる。</p>

## 7 国際理解部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 国際化の進展に対応できる広い視野と自己表現力を持った生徒を育成する。	(1) 異文化体験をした生徒による体験発表の一層の充実を目指し、その体験を多くの生徒が共有できるようにする。 ・生徒向け啓発資料 「MiniWorld」年5回発行 ・広報誌「Global Village」の発行 ・モーニングスピーチでの異文化紹介等の実施 ・紫陽祭でのオーストラリア研修会展示発表実施 ・「留学生国際理解発表会」実施（8月） ・オー研報告会 ・プレゼン研修（12月）	B	モーニングスピーチを生徒がすることでより関心が高まった。 モーニングスピーチに集中させる指導を行った。 部に関する行事が行われる前後は、その意義について触れるようにした。 ----- ホームページへの掲載を増やすと、さらに異文化に関心がある生徒が増えると思われる。 来年度も継続 ・モーニングスピーチ ・紫陽祭でのオーストラリア研修会展示 ・派遣留学生発表会 ・オー研発表会 ・プレゼン研修
	(2) 実践的コミュニケーション能力を伸長させるため、弁論大会等への参加を奨励する。	A	校内スピーチコンテストがあることで、大会参加への流れが自然にできている。 ----- コミュニケーションが苦手な生徒ほどチャレンジさせ、呼びかけをもっと強化したい。
2 国際交流活動の活性化を図る。	(1) 「オーストラリア語学研修」について、平成 29 年度の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。	B	様々な観点から、プログラム内容の検討をする必要がある。 ----- 業者選定、現地学校との交流、研修地等について、より多くのメンバーで、早い時期から検討する。
	(2) 「国際交流会」の円滑な運営を図り、内容の一層の充実を目指す。	B	盛り上がっていた。他の教員も教室に入りやすい雰囲気があるとよい。 国際理解委員のよい活躍の場であると思う。 ----- 事前に活動内容を活動場所に掲示して、入室しやすくする。 次年度も継続したい。
	(3) 受け入れ及び派遣留学生に対する指導をきめ細かく行う。特に派遣留学生が本校から毎年出るように、啓発活動を積極的にする。	A	今回の留学生は、本当によく学んでいた。また、派遣留学生もいて、本校生は多くのことを学ぶことができた。 受入留学生のモチベーションや能力が高かったこともあり、指導もスムーズに行えた。 ----- 常に学ぶ姿勢が明確な生徒を受け入れたりと、派遣させたい。 次年度は呼びかけをさらに強化するだけでなく、AFS 以外の団体（EF,ロータリー等）からの受け入れも考慮する。

## 8 渉外部

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 保護者および同窓会会員との連絡連携を密にし、特色ある活動の活性化をはかる。	(1) ふれあい街頭指導は「ふれあい挨拶運動」と名称を変更し、目的を明確にする。現状に対応し、効果的な実施を工夫しながら、生徒の良好な生活習慣の確立に寄与する。また保護者	B	・保護者の出席率は、昨年度より低くはなっているが 50%以上の出席率はある。保護者からも、意義を認める意見が学校評価の中であった。 ・生徒に対する良い影響が大きいと思われる。 ----- ・基本的には現在の実施方法を維持するが、保護

	の参加率向上を目指す。		者の参加率を上げるように、総会や学年会で広報する。
	(2) 同窓生・および保護者の学校行事への参加を促進し、キャリア教育の観点から、生徒の意識向上を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育講演会、創立記念日には、同窓生に講演して頂いて、実りある話を伺うことができた。生徒の意識向上に良い影響があった。</li> <li>・創立記念日は、同窓生にこだわらなくても良いのではという意見があった。(3年に一度は有名人を呼ぶことになっている。)</li> <li>・キャリア講演会は、進路と連携を取りながら実施する。</li> </ul>
2 各行事への保護者の積極的な参加を促す。	(1) PTA 行事(総会・研修旅行)への保護者参加者数の向上を目指して、計画、広報を工夫する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/29 に初めて実施した奉仕活動(庭木剪定)には47名の保護者の出席があり、大きな成果があった。</li> <li>・総会の出席率は、昨年度より少し下がった。</li> <li>・研修旅行の参加者は、昨年度より20名増えた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として参加者は一定数あるが、向上を目指して広報を工夫する。</li> <li>・学校のHPを上手く活用する。</li> </ul>
	(2) 学校行事(学校祭・持久走大会)の協力活動について改善点を明確にして、実施の充実をはかる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持久走大会の協力は毎年積極的である。豚汁作りの役員(約30名)の他に、交通指導で約80名の協力があつた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も多くの保護者が参加協力してくれるように、改善点を引き継いで行く。</li> </ul>
3 文書資料、各行事の資料を整理保管し、利便性を向上させる。	PTA の文書資料・行事資料、同窓会の資料を取捨選択し整理に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の文書は校内LANに良く整備されている。</li> <li>・同窓会文書はほぼ手がつけられていない。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も文書資料、行事資料の整理に努める。</li> <li>・同窓会については、何を残すべきかを検討する。</li> </ul>

## 9 1 学年

評価基準 A : 達成できた B : おおむね達成できた C : あまり達成できなかった D : 達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させ、高校生活に早期に適応させる。	(1) 校内規程に則り、身だしなみを整えさせ、年間を通じて良好な出席率を維持させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通理解をもとに協力して指導できた。</li> <li>・服装等で注意が必要な生徒がいる。</li> <li>・これからも継続的に指導する。</li> </ul>
	(2) 教室内の環境美化に努め、常に学習環境を整えさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃状態が悪い箇所(特に廊下)が見られる。</li> <li>・ロッカーの上に荷物が乗っていた。</li> <li>・移動教室の際の教室の消灯ができていない。</li> <li>・清掃の徹底、声掛け(特にテスト後)をする。</li> <li>・クラス、集会で指導する。</li> <li>・破損箇所はすぐに直させる。</li> </ul>
2 主体的な学習習慣を身につけさせ、基礎学力の向上を図らせる。	(1) 具体的に予習・復習の方法を指導し、家庭での学習習慣を身につけさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習記録表を改善し、各自の状況を確認した。</li> <li>・各教科で居残り学習や個人への指導を実施した。</li> <li>・予習・復習の習慣あるなしで二極分化している。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習未習慣化の生徒に継続的な指導を行う。</li> <li>・必要に応じて個別対応する。</li> <li>・学習時間記録表の効果的な活用を図る。</li> </ul>
	(2) 種々のテストの結果を分析し、各自の課題把握と改善に努めさせる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく早く成績の結果をまとめ、配布出来た。</li> <li>・HR等で、返却時に組、学年の傾向を伝えた。</li> <li>・資料の活用、個人への事後指導が不十分だった。</li> </ul>

		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト後復習しない生徒がいる。</li> <li>・生徒に復習の重要性を理解させ、習慣化を意識づける。</li> <li>・資料をファイリングさせて保管・活用させる。</li> <li>・保護者に結果を知らせ、家庭で共有してもらう。</li> </ul>
	(3) 基礎的課題研究に取り組み、主体的な学習への意識を高めさせる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度で、十分な展開ができなかった。</li> <li>・全員での取り組みを重視したが不十分であった。</li> <li>・総学で進路指導やクラス裁量の時間が不足した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の問題点を分析し、次年度に生かす。</li> <li>・図書館、PC室を計画的に利用する。</li> </ul>
3 一人ひとりの志望と適性を生かした進路指導を進める。	(1) 適性検査、面談、オープンキャンパス等を通して個人の適性を把握し、進路意識を高め、適切な類型選択ができるようにする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく情報提供ができていた</li> <li>・進路を意識させるため、機会をとらえ助言した。</li> <li>・明確な進路意識を持っていない生徒がいる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、オープンキャンパスへの参加を促す</li> <li>・研究会等に参加し、職員側の進路指導の知識、ノウハウを高める。</li> </ul>
	(2) 校外模試の実施、小論文や英検の指導を通して、進路実現に向けた基礎学力の養成を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で事前対策を講じ、学習を促した。</li> <li>・小論文の添削を丁寧に行った。</li> <li>・学年全体で、英検の受験を奨励した。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模試等の後に必ず復習させることが必要である。</li> <li>・進路を意識した受験・学習にシフトさせる。</li> </ul>

## 10 2学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基本的な生活習慣を確立させる。	(1) 頭髪・服装等の服装規程を守らせ、挨拶など基本的な生活習慣を身につけさせ、落ち着いた学校生活を送らせる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学年全員の先生方が協力してできたと思う。</li> <li>・一部指導が必要な生徒（スカート丈など）はいるが、全体として学校生活は落ち着いている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女子のスカート丈などは継続した指導を行う。</li> <li>・共通認識を持ち、指導を徹底する。</li> </ul>
	(2) 清掃を徹底させて、教室内の環境美化に努め、学習環境を整える。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室内の整備はある程度できているが、環境美化の意識が低い（ゴミの分別ができない・廊下窓枠の荷物放置等）生徒もいる。</li> <li>・黒板消し、黒板が若干汚れている。</li> <li>・荷物放置はすぐ注意し、週番各清掃班に指導の徹底（含教室後部黒板）をする。</li> </ul>
2 家庭学習を定着させ学力の向上を図る。	(1) 課題の提出を徹底させる。また、予習・復習の習慣を定着させ、自主的な学習態度を	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題未提出者が一部おり、家庭学習時間が短く、自主的に学習している生徒数も少ない。</li> <li>・学習時間調査はよい意識づけになっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題提出の意義を説明し、自分で解く習慣が身に付くよう粘り強く指導していく。</li> <li>・自主性・主体性に欠ける生徒に、面談などを通して適切な働きかけを行う。</li> </ul>
	(2) 種々のテストの結果を分析し、下位層を減らし、上位層を増やせるよう学力の向上に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で、追試や復習・事前対策など行ったが、テスト分析後の改善には至っていない。</li> <li>・テストをこなすのに必死で、復習まで回らない。</li> <li>・上位層の指導、下位層の学力向上が不十分である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上位層と下位層へのより効果的なフォローを実</li> </ul>

			践する。 ・受験や将来との関係性をよく説明する。
3 一人一人の希望・適性に応じて進路意識をさらに深める。	(1) キャンパス見学・LHR・総合的な学習時間の指導・面談などを通して具体的な進路を考えさせる。	A	・行事等や指導計画は実施されているが、生徒の意識が不十分である。 ・修学旅行での進路学習は効果的だった。 ・キャンパス見学や翔南一日大学は有意義だった。 ----- ・具体的な進路目標を自らが考える時間を増やす。 ・生徒に学部学科を調べさせる時間をとる。
	(2) 進路指導部と連携し、進路研究を充実させるとともに、個々の生徒に合った進路資料を提供する。	A	・各担任が各クラスで実施した。 ----- ・来年度は進路実現の年度になるので、個々の生徒の情報を進路指導部と共有していきたい。

## 1 1 3 学年

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 規律正しい学校生活を送り、最上級生としての自覚を持って行動させる。	(1) 規定に則って身だしなみを整えさせ、あいさつを励行する。	B	・多くの生徒が正しく制服を着用し、身だしなみを整えて学校生活を送った。 ・登下校時や廊下ですれ違う時のように、始業と終業時もしっかりあいさつできるとよかった。 ----- ・全職員の共通理解と連携を図り、学年団として指導する姿勢を明確に示す。
	(2) 整理整頓と清掃の指導を徹底し、学習に適した環境を整えさせる。	B	・毎日の清掃はよく取り組めた。 ・テスト時にロッカー上に移動した私物を、テスト後もそのままにしてしまう者が目についた。 ----- ・私物管理（整理）の指導を徹底する。
2 各自の進路実現に向けて学習の量と質を確保できるよう指導し、学力向上を図る。	(1) 毎日決まった時間に机に向かう習慣を身につけさせるとともに、中長期的な見通しに立った計画を立てて家庭学習に取り組ませる。	A	・多くの生徒が学習習慣を確立し、受験生としてきちんと取り組んでいた。 ----- ・学習に取り組むに当たって、個々の目標を明確にすることの重要性を意識させる。
	(2) 種々のテストの結果を分析して各自の課題把握と改善に努めさせ、学年全体としての学力の底上げと上位層の増加を図る。	B	・有効な結果分析ができず軌道修正に苦労した者もいたが、多くは試験を活用して自分の学習課題をよく把握できていた。 ・得意科目を磨いて成績を伸ばした生徒でも、苦手科目を克服して学力バランスを整えるのは難しかった。 ----- ・副担任でなく正担任が全体的な試験結果の分析にもあたり、より迅速に指導に還元する。 ・自己分析の進まない生徒には、担任だけでなく教科担当からの働き掛けも積極的に行う。
3 生徒の進路希望と学習上の課題を把握し、実態に即した指導・支援を行う。	(1) 年間を通じて積極的に面談を実施し、実態把握と機に応じた助言を行う。	A	・積極的に面談を行って生徒理解を進めるとともに、信頼関係を構築し、適切な助言を行えた。 ----- ・面接週間中は担任が面接に専念できるよう、課外授業や会議の持ち方を検討する。
	(2) 進路指導部との連携を強化して進路研究を充実させ、生徒の適性・志望に沿った形での進路選択を支援する。	A	・担任が進路指導部と緊密に連携して進路指導に当たれた。進路指導部が担任に対する指導・助言だけでなく、生徒への直接指導（面談など）にまで当たってくれたことは、生徒に大きな安心を与え、その信頼関係の中で担任も有効な進

			路指導を行うことができた。 <hr/> ・進路指導部と学年に教科担当を加え、さらに充実した進路指導を目指して連携を深める。
--	--	--	--

## 1 2 国語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒が効果的な学習法を確立できるように指導する。	(1) 時期に応じた学習を行えるよう、適宜学習法に関するガイダンスや指導を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で時機を見て実施できている。</li> <li>ノートのチェックをしながら、個別対応でアドバイスをを行っている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して実施する。</li> </ul>
	(2) 課題により学習の習慣化を図り、自主的な学習につながる指導を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒は課題の取り組み状況はよいが、自主的な学習につながる指導となると、足りない部分がある。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続して指導する。</li> <li>個別に働きかけをしていく。</li> </ul>
2 基礎学力の定着および記述力の向上を図る。	(1) 古典分野を中心に小テストを実施し、振り返りの機会を設けることで、基礎的な学力事項の確実な定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストに対する生徒の取り組みが良く、意味があった。</li> <li>小テストをきっかけに家庭学習へつなげられたように感じる。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>他教科でも小テストを実施しており、他教科と連携して、小テストが重ならないようにすることも必要である。</li> </ul>
	(2) 思考力を鍛え、長文の記述に対応できる力の向上を意識した授業展開を工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文での、評論文の要約や小説での感想文など記述の機会を増やした。</li> <li>ペアやグループなどで、生徒同士で考え合ったり、教え合ったりする形式を授業に取り入れた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい入試に備えて、来年度も継続して実施する。</li> </ul>

## 1 3 地歴・公民科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 教材研究・自己研修に努めて教科指導力を高め、生徒の学習意欲の喚起と学習習慣の定着させる。	(1) アクティブラーニングなどを効果的に取り入れた分かりやすい授業を展開するための教材研究のあり方を考える。また、大学入試問題を研究して試験問題の工夫を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の状況を勘案して教材研究を行い、その指導法を担当者間で共有することで、分かりやすい授業の展開に努めることができた。</li> <li>アクティブラーニング型の授業については、昨年度以上に意識して取り組むことができた科目もあったが、全体としてまだ不十分なところがあった。</li> <li>試験問題については、特に校内模試や実力テストにおいて、その実施の目的を踏まえて大学入試問題を研究し、試験問題の工夫を図ることができた。定期テストにおいても、生徒の学習内容の定着を確認する問題を作成できた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や教材研究については、今回の結果に慢心することなく、常に教員も向上心も持って指導力の向上に努める。</li> <li>アクティブラーニングを取り入れた授業研究に参加し、本校における取り入れ方を模索する。さらに、グループごとに考える活動を徐々に取り入れる。</li> </ul>

	(2) 家庭学習の方法を早期に指導するとともに、定期的なノート提出により生徒の状況を把握し、必要に応じて教科面談を実施する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の受け方については年度当初に、学習法についてはテストの時期などに、折に触れて指導することができた。</li> <li>面談については、テストの状況が芳しくない者や、授業や提出物の様子が気になる生徒などを中心に実施できた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の受け方や学習法の指導は、今後も継続する。</li> <li>教科面談の時間の確保について検討する。</li> </ul>
2 生徒の基礎学力の向上を図るとともに、センター試験をはじめとする大学入試に対応できる学力を身につけさせる。	(1) 基本的事項の確実な定着を図るために、小テストを計画的に実施し、成績不振者に対する指導の方策を考える。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストを計画的に実施できた科目と、授業時数の関係からあまり実施できない科目があった。</li> <li>小テストについては、生徒は真面目に取り組む、基本的事項の定着を図ることができた。</li> <li>成績不振者については、必ず面談を行うよう心掛け、生徒の実情に応じた指導を行った。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して、小テストの重要性を説明し、事前準備をしっかりと行う雰囲気を醸成する。</li> <li>授業内容を精選することで、小テストを計画的に実施する時間の確保に努める。</li> </ul>
	(2) 校内模試や校外模試の分析を通して科目ごとの強みと弱みを把握し、授業は言うまでもなく、課外にそれらをフィードバックすることで、受験を早期に意識させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の打合せを利用して、模試の結果の分析を行うことができた。しかし、分野別の状況の把握に関しては、不十分などころも少しあった。</li> <li>分析した結果を、課外にフィードバックすることができ、特に2年生において、今からの学習の重要性を意識させることができた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も教科の打合せでの分析を継続する。</li> <li>分析結果を踏まえて、早い段階からの学習の重要性を説明することで、最後まで頑張る雰囲気の醸成に努める。</li> </ul>

## 1 4 数学科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 家庭学習の習慣化を促し、基礎学力の向上と、考える力を身につけさせる。	(1) 予習・授業・復習といった学習のサイクルの習慣化を促し、週末課題の提出を徹底させ、主体的に学習できるように導く。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を提示し、学習習慣を促すことはできたが、主体的に数学に取り組みせるとい部分ではさらなる努力が必要である。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題の提示の仕方、学習ペースの指示など具体的な指導が必要である。</li> </ul>
	(2) 必要な場面・状況で習熟度別授業を行い、個々の生徒に応じた教材を提供し、学力向上へとつなげる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年で習熟度別授業を行うことができた。しかし、下位クラスの授業へのモチベーションが下がってしまっているところが見られた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く、生徒の状況を把握しながら指導に当たりたい。</li> </ul>
2 生徒の学習意欲を高め、進路実現に向けた実践力を養う。	(1) 土曜課外・平常課外の時期と内容を検討し、多くの生徒が主体的に参加するよう、計画的に実施し、効果が上がるよう努力する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年多くの生徒が参加し、実施することができたが、高学年になるにつれて途中で受講をあきらめてしまう生徒の割合が高くなっている。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>取り組みせ方の工夫や粘り強い指導を心掛けたい。</li> </ul>
	(2) センター試験（数学）において得点率を全国平均に近づけられるよう、効果的な指導をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>マークシート形式に偏りすぎて、記述形式での問題演習量が少なかった。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの精選やマークシート形式と記述形式のバランスを考えたい。</li> </ul>

## 15 理科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 科学的な興味関心を喚起するとともに、授業内容の充実を図る。	(1) 観察、実験、発表の機会を多く取り入れて、知識・技能の向上を図るとともに、日常生活との関連を考えさせて、理科への興味関心を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験などは、各科目において計画的に取り入れ、知識の定着の一助になった。しかし、生徒が発表する機会を増やす必要がある。</li> <li>・黒板に結果等を書かせるだけでなく、その求め方や考え方も同時に発表させると、考える力を向上させられるのではないかと思う。</li> </ul>
	(2) 未来創造推進事業の最終年度であり、各科目の授業において、この事業で購入した機材の活用の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3科目ともそれぞれ購入した機材を活用して、授業展開を行い、発展的探求活動を行うことができた。</li> <li>・事業は終了するが、次年度においても活用の充実を図っていきたい。</li> </ul>
2 生徒の進路実現のために、積極的な支援を行う。	(1) 理系学部・学科への進学を目指す生徒に対し、進学に関連する情報を提供し指導・助言を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系の進路につながる授業内容の検討が更に必要である。</li> <li>・模試等の結果分析をさらに深めて、苦手分野の克服を支援する。</li> <li>・理科の有用性を仕事と結びつけ、積極的に職業や大学の学部・学科の情報を提供する。</li> </ul>
	(2) 各大学の実施講座の参加、及び高大連携講座（GSC）を企画・実施して、生徒の進路選択の一助となるように支援する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇大のGSCやiP-Uへの参加、および翔南サイエンスツアーを通して、理系進路に関する情報提供ができ、生徒の進路選択の一助になった。</li> <li>・次年度も高大連携講座やサイエンスツアーの企画運営を行い、生徒の進路選択の一助となるように支援する。</li> </ul>

## 16 保健体育科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 健康・安全に対する意識の涵養と体力の向上を図る。	(1) 授業に向き合う姿勢を見直し、集団行動のマナーを身につけさせる。 ・集合時間の厳守 ・体育委員の役割の徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各先生方が厳しく指導に当たって頂いたお陰で、集合時間、体育委員の役割を徹底できた。</li> <li>・今後も継続して実施する。</li> </ul>
	(2) 体力の向上を目指して、スポーツテストの結果を踏まえたトレーニング法を工夫する。 ・生徒主体の取り組み	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の現状や、種目の特性に合わせてトレーニングメニューを構成できた。</li> <li>・今後も継続して実施する。</li> </ul>
2 体育施設の管理を徹底し、有効的な活用を図る。	(1) 体育施設（サッカーコート・第一体育館の床）の整備を進めると共に、備品の充実をはかる。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1体育館の床のゆがみ、ワックスがけを事務部の協力のもと行うことができた。</li> <li>・昨年度からの懸案になっている男子サッカーコートの整備が全く進まなかった。</li> <li>・複数年に渡る体育施設整備計画の作成を事務部に依頼する。</li> </ul>
	(2) 体育施設の管理を確かなものにするために、点検・施錠・清掃等、適切な取り扱いを徹底する。 ・長期休業中における清掃	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休暇中の清掃は各部のローテーションでしっかり行えた。</li> <li>・第1・2体育館、翔武館共に施錠は徹底できた。</li> <li>・今後も継続して実施する。</li> </ul>

	担当の割り振り ・施錠の徹底		
--	-------------------	--	--

## 17 芸術科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 基礎的・基本的内容の充実を図りながら、生徒一人一人の興味・関心を深め、芸術活動を充実させる	(1) 指導内容を精選し、表現活動の質を高められるような授業の実践に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握し、より重要でかつ興味を引きやすい教材を選択することに努力し、活動が充実した。</li> <li>・教員側の実演の仕方の工夫が必要と感じた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しの実技の習得に努める。</li> <li>・実技活動での個々の進捗を把握し、考慮した指導内容の工夫に努める。</li> </ul>
	(2) 表現活動及び鑑賞活動の相互の関連を図り、創造的な学習をより活発に行うことができるよう努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現と鑑賞をセットにして毎時間行うことで内容が充実した。</li> <li>・鑑賞活動の時間を充実させたため、生徒の芸術に対する視野を広げたり様々な発見をしたりすることができ、より創造的な活動を行うことができた。</li> <li>・日常生活や生徒が日頃考えていることに注目させ、芸術に対する視野を広げ、個性豊かな創造へつながるような指導を行う。</li> </ul>
2 芸術を愛する心情を育て、生涯学習の一環として豊かな情操と創造力を深める。	(1) 活動の喜びを得るとともに、生涯にわたって芸術に親しむ態度や習慣を身につけるよう指導する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容をより身近なものにしたり、生徒同士で協力することにより、表現することの楽しさや達成感を味わうことができるよう工夫した。</li> <li>・一つの作品を時間をかけて制作し、完成させていくことにより、達成感を身に付けさせることができた。また、鑑賞活動では作品の良さや美しさを感じ取ることができた。</li> <li>・個性を尊重し、より豊かな想像へとつながる授業展開が必要と感じた。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の完成や考えを尊重し、賞賛とアドバイスを的確に行う。</li> <li>・好き嫌いでなく、そのものの良さや美しさを感じられるように指導する。</li> <li>・生徒同士の鑑賞だけでなく、作家の作品の鑑賞も交えながら、繰り返し行い、芸術に親しむことができるようにする。</li> </ul>
	(2) 音楽・美術・書道の歴史と変遷、日本の伝統芸術などへの関心や理解を深められるよう指導する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野の歴史を学ぶことを通して、日本の伝統芸術への興味を深めることができた。</li> <li>・日本の伝統芸術に対する概念を、より身近で興味深いものであるというイメージに変えることができた。</li> <li>・教員側が我が国の伝統芸術について幅広い知識を習得しておくよう努める。</li> <li>・他教科との関連も考えて指導する。</li> </ul>

## 18 英語科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 学力の向上を図る。	(1) 学習意欲を高める授業を心がけ、家庭学習の一層の定着を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を多く取り入れた授業で、生徒の学習意欲が向上した。</li> <li>・家庭学習の習慣化ができていない生徒と、できていない生徒の二極化が見られる。</li> </ul>

			・早い段階で、家庭学習を定着化させる指導を工夫する。
	(2) センター試験での全国平均点を目標とし、指導の工夫をする。	B	・3年1学期から読解、リスニングの10分演習、2学期からは80分演習を通して、各問題の取り組み方を指導し、問題に慣れさせた。 ・全体としては全国平均点に届かなかったが、8割、9割以上の高得点を取る生徒が昨年度より増えた。 ・1、2年で読解の基礎となる文法語法に習熟させる指導の工夫をする。
2 英語コミュニケーション能力を養う。	(1) 生徒が英語コミュニケーション活動を積極的に行うよう授業や学校生活において支援していく。	A	・ALTとのティーム・ティーチングやペアワークなど、コミュニケーション活動を多く取り入れた授業が実施されている。 ・学年担当者間で話し合い、一定の統一した内容で授業を行っている。  ・より良いものを目指して、授業方法を研究して行く。
	(2) 指導科目・内容に応じて使用言語の適切な選択を行い、生徒・教員ともに、英語を発話する機会や量を増やす。	A	・学年行事として1学年のスピーチ・コンテスト、2年生のプレゼンテーション大会などを実施し、生徒の英語を話す機会を増やした。  ・上記大会の内容の充実を目指して指導する。
3 弁論大会、検定試験等へ積極的に参加する。	(1) 英語弁論大会、国際理解弁論大会等のスピーチ指導を計画的に行う。	A	・校内の大会の上位者が、南部地区大会へ、また県大会へ出場する流れができています。 ・ALTも含めた指導が計画的に実施された。  ・内容の充実を目指して、指導の工夫をする。
	(2) 各学年の実用英語検定取得目標取得者 1年 準2級 50名 2年 準2級 100名 3年 2級 15名	A	・いずれの級も、目標取得者を大きく超える結果が得られた。 ・本校会場実施の第3回ばかりでなく、校外会場実施の第1回、第2回にも100名前後の積極的な受験がみられた。 ・一次のライティング、二次のスピーキング（面接）の指導をALTも含め英語科全員で分担し、計画的に実施している。  ・今後の大学入試新テストの一部となる4技能型の他の試験も考慮しながら、今後のより良い検定試験の実施、指導を検討していく。

## 19 家庭科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る能力を育む。	(1) 指導内容の精選を行い、生活活動に関わる事柄について関心を持ち、知識・技術の定着を図れるようわかりやすい授業の実践に努める。	A	・身近なテーマを題材にすることで、生活に関わる事柄について興味関心を持ち、知識を高めることに繋がった。技術面においては個人差はあるが、 <u>自分で率先して活動できる生徒が増えた。</u> ・2単位の授業の中で効率よく授業展開ができるよう、題材設定を更に検討する。
	(2) じぶん未来学、能動的学修の視点から計画表の見直しを更に図り、効果的に学習できるようにする。	B	・一部見直しを行ったが、効果的な学習とは言いがたく、課題が残った。  ・情報収集や研修会等に参加し、本校に適した学習内容を検討する。

2 実践的・体験的学習を通し、生活事象を科学的に考える力を高めると共に、安全・衛生面での意識を高揚させる。	(1) 思考力・実践力を高めるため、実験・実習を効率よく取り入れる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験・実習等の体験的な学習を通し、思考力や実践力を高めることができた。</li> </ul>
	(2) 事前準備から事後指導を適確に行い、注意事項の周知徹底を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前準備に時間をかけ、実験・実習を円滑にできるよう心がけたが、注意事項を徹底させるには少し課題が残った。</li> <li>・個別指導を頻繁に行って対応していかなければならない。</li> </ul>

## 20 情報科

評価基準 A：達成できた B：おおむね達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

努力目標	具体策	評価	上段【反省・課題】・下段【改善策】
1 生徒の興味関心を高め、情報活用の実践力を高める。	(1) 文書処理ソフトを活用しながら、情報機器の基本的な使い方や情報機器を利用するときの注意点を理解させ、実践力を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に Word を利用して文書作成を行い、ほとんどの生徒が必要とされる力を身に付けた。</li> <li>・苦手な生徒へはもう少し細かな指導をしていきたい。</li> </ul>
	(2) 実技の時間を増やし、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを使い、情報を収集・処理・表現し、受け手に発信ができるような力を養う。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期は Excel を用いて実技の演習を行い、グラフや計算式をおおむね理解できた。</li> <li>・苦手な生徒へはもう少し細かな指導をしていきたい。</li> </ul>
2 情報社会に参画する態度を養う。	(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題、および個人の責任について理解させ、情報社会の一員としての能力と態度を育成する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、DVD を用いて SNS 等で起こるトラブルについて考えさせることができた。</li> <li>・できれば年度の早い段階で行えるとよい。</li> </ul>